

通学路安全推進事業



取組地区：姫城地区

取組年度：平成 30 年度

事業主体：姫城地区まちづくり協議会

事業費：1,431,100 円（基金活用額：1,380,000 円）

問合わせ：46-2603

課題・取組みの概要

- 地域の宝である子ども達の登下校時の「安全・安心」を守る必要がある。
- ボランティアによる見守り隊（安全指導）は、決まった時間帯に活動されるが、子どもやドライバーの目に届く看板を設置することで、安全への意識付けができることから、電柱看板の設置に取り組んだ。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 「通学路注意」は、通行車両に注意喚起を促し、また「知らない人について行かない!!」は、下校する児童生徒の目に付くように設置したことで、通学路の安全・安心を守る環境づくりの一つとなっている。
- 姫城地区内の 3 校（姫城中、明道小、南小）周辺の九電と NTT の電柱 20 本に設置した。
- 交通量が多い場所や交差点の周辺を中心に設置した。

今後の課題・アドバイス等

- 電柱広告料を 5 年間契約としたことから、6 年目以降の広告料が年間 26 万円（13,000 円／本）程度が必要となるため、まち協での財源の確保が必要となる。

子どもの見守り活動充実事業



取組地区：姫城地区
 取組年度：令和2年度
 事業主体：姫城地区まちづくり協議会
 事業費：829,950円（基金活用額：829,000円）
 問い合わせ：46-2603

課題・取組みの概要

- 地区内小中学校3校では、登下校時、PTAやボランティア等による学校ごとの見守り活動を実施しているが、これを「地域全体での取組としていきたい」との意見があった。
- 統一したジャンパーや帽子を着用することで、地区住民や通行車両に活動を知らしめた。
- 車載用拡声器を使った安全パトロールを実施した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 児童・生徒の見守り活動を地域の活動として、各学校間の連携強化が図られた。
- スピーカーを使った巡回により、見守り隊の活動充実が図られた。

今後の課題・アドバイス等

- 更新のタイミングと財源。
- メンバーの体格を把握できず、サイズの合わない人がいた。
- 役員等の交代時に、「前任者の着用したジャンパーを後任者が引き継いで着用することには抵抗がある」との意見があった。
- 日常の維持管理費の財源（洗濯・クリーニング代等）

祝吉地区安全安心なまちづくり事業



取組地区：祝吉地区

取組年度：平成 30 年度

事業主体：祝吉地区まちづくり協議会

事業費：259,200 円（基金活用額：259,200 円）

問合わせ：23-2890（祝吉地区公民館）

課題・取組みの概要

- 祝吉地区は、10 号線、269 号線の 2 本の国道が横断し交通量が多く登下校時の事故等の発生が懸念されていた。
- 各小中学校の児童生徒の登下校時に地域住民が見守り活動を実施する。
- 見守り活動を実施するため、「子ども見守り隊」タスキを 400 本作製した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 通学路周辺に居住する住民に見守り活動への協力を依頼。自宅周辺での見守り活動の協力が得られた。
- 登下校時に地域の高齢者等が、見守り活動を行うことで児童生徒との交流が生まれた。

今後の課題・アドバイス等

- 更新方針：学校との連携を密にし、開校日・閉校日を確実に把握する必要がある。
- 見守り活動に参加可能な住民を把握する。

祝吉地区安全安心なまちづくり事業



取組地区：祝吉地区
 取組年度：令和2年度
 事業主体：祝吉地区まちづくり協議会
 事業費：4,974,000円（基金活用額：4,974,000円）
 問合わせ：23-2890（祝吉地区公民館）

課題・取組みの概要

- 祝吉地区は、公園や史跡等が多く点在しており市民の憩いの場となっている反面、声掛け事案や不審者情報などが寄せられることもある。また、国道10号線、269号線が地区内を横断しているため事故等の発生も懸念されている。
- 地区内の通学路など主要箇所11か所に防犯カメラ（見守りカメラ）を設置した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 防犯カメラを通学路などに設置することにより抑止効果と事件や事故が発生した場合の早期解決につながることを期待される。
- 市道の場合は、道路公園課へ使用申請、民有地の場合は、まち協会員が土地所有者へ説明に出向き無償利用について承諾を得た。
- 都城警察署と映像提供に関する協定書を締結した。

今後の課題・アドバイス等

- 更新方針：設置後3年間は、設置業者がメンテナンスを行う。その後の維持管理費は、まち協予算で対応予定である。
- 機器の耐用年数：防犯カメラ6年・レコーダー3年
- 運用に係る経費（電気代、修繕費など）や更新に係る経費を予算化する必要がある。
- 設置場所について、公有地・民有地とも使用申請や借用協定書など文書による管理が必要である。
- 「映像データ提供に関する基準」を作成し都城市総務課へ提出が必要である。

子どもの見守り活動充実事業



取組地区：五十市地区

取組年度：令和2年度

事業主体：五十市地区まちづくり協議会

事業費：840,045 円（基金活用額：792,000 円）

問い合わせ：23-2184

課題・取組みの概要

- 青少年の安全確保や健全育成に地域全体で推進するため、ベストと帽子を整備した。
- これまでの見守り活動は任意の活動に偏っていたことから、対策を講じる必要があった。
- 導入を機に、より充実した活動に発展させようと、まずは公民館長と民生委員児童委員が率先垂範し、高齢者クラブ等にも呼び掛けて取り組み始めた。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 見守り活動充実のため、学習会や調査を通して先進的な取り組みを学んだ。
- 見守り活動の実施に当たっては、ベストと帽子以外にも、横断旗（指導旗）が必要との要望があり、急遽、準備し配布した。
- 学校との協議により危険箇所や見守り場所の明示等を行う一方、散歩がてらの見守りや自宅前での見守り等、それぞれの団体や個々人の主体性を尊重し取り組むこととした。

今後の課題・アドバイス等

- 意識の高揚を図り活動の輪を広げるため、館長会等で相互の状況報告等を行っている。
- 学校とも連携し、活動者による校区毎或いは地区内での情報交換の機会を設けたい。
- 雨具や夏用ベスト、車の表示シート等、必要なアイテムを逐次充実させる必要がある。
- 維持管理や更新に係る費用が必要となる。

地域安全パトロール隊の充実を図る事業



取組地区：横市地区

取組年度：令和元年度

事業主体：横市地区自治公民館連絡協議会

事業費：1,212,000 円（基金活用額：1,212,000 円）

問合わせ：25-2257

課題・取組みの概要

- 平成 28 年度に、旧称「子ども安全パトロール隊」を、子どもだけでなく高齢者等も対象とするため「地域安全パトロール隊」に改称したものの、腕章・帽子等が旧称のままになっていた。
- 腕章や帽子、マグネットステッカー、ベスト、手旗、雨合羽、交通整理灯の用具を購入した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 用具は、西小・明和小校区の安全パトロール隊が登校時の見守りで活用し、活動の充実と安全の確保に大変役立っている。

今後の課題・アドバイス等

- 今後は、小学校のボランティア活動や地域安全活動等でも、用具の有効活用を図る。
- 用具の補充は、まちづくり協議会が随時行うことで、地域の安全安心を担保する。

防災対策環境整備事業



取組地区：沖水地区

取組年度：令和2年度

事業主体：“住みよいまち沖水”協議会

事業費：264,000円（基金活用額：264,000円）

問合わせ：38-1033

課題・取組みの概要

- 各自治公民館に常備している防災用ヘルメットが老朽化して、耐用年数を経過していた。
- 防災用ヘルメットを120個購入し、各自治公民館に10個ずつ配備した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 防災に対する意識が向上した。
- ヘルメットは各自治公民館で管理し、災害の際に使用する。

今後の課題・アドバイス等

- 耐用年数を考慮し、適切な時期に更新できるよう財源を検討していく必要がある。
- 記録的な災害が増えていることに加え、介助が必要な高齢者も多くなることが予想される。救助活動に従事できる人の確保も必要であり、ヘルメットの追加も発生する。

志和池地区交通安全活動推進事業



取組地区：志和池地区
 取組年度：平成 30 年度
 事業主体：志和池地区交通安全協議会
 事業費：540,216 円（基金活用額：540,216 円）
 問合わせ：36-0519

課題・取組みの概要

- 子どもから高齢者までが、安全・安心に生活できる環境を作るためには、交通安全活動及び啓発活動の従事者の安全確保を図る必要がある。
- 交通安全活動中に、車両から一目で確認できるような目立つベストを 200 着作成。交通安全協会や小中学校、自治公民館長、民生委員・地区関係者へ配布した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- ベスト着用により、交通安全活動中であることが遠くから視認できるため、車両運転手や歩行者へ交通安全の啓発ができ、活動従事者の安全が確保されている。
- ベストは、その都度貸出（一括管理）ではなく個人が管理している。

今後の課題・アドバイス等

- 消耗品であるため、状況によっては更新若しくは補充の必要があり、財源を検討していく必要がある。
- 交通安全活動の実施者にとっては必需品である。

安心安全なまちづくり推進事業



取組地区：志和池地区

取組年度：令和元年度

事業主体：志和池地区まちづくり協議会

事業費：111,085 円（基金活用額：111,085 円）

問合わせ：36-0519

課題・取組みの概要

- 民生委員児童委員の活動について、地域住民に安心感を与えとともに、相談しやすい環境を整える必要があった。
- 個人宅訪問や街頭活動において、不審者と間違われずに民生委員児童委員と一目で確認できるベストを着用する。
- 前後にロゴマーク入りのベストを予備も含めて 23 着作成し、民生委員児童委員に貸与した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- ベストを着用することにより、民生委員児童委員であることが一目で判別でき、活動者自身も見守り対象者も安心して対応できる。
- ベストは、民生委員児童委員が各自で管理。改選後は、後任に引き継いでいる。

今後の課題・アドバイス等

- 消耗品であるため、定期的な更新や補充が必要となり、財源を検討していく必要がある。
- ベストは、安全・安心な地域活動を行うための必需品と考えている。

有害鳥獣対策事業

囲い罠イノシシ捕獲写真



猟友会によるくくり罠講習会



取組地区：庄内地区

取組年度：平成 30 年度～令和 2 年度

事業主体：庄内地区まちづくり協議会

事業費：1,126,502 円（基金活用額：1,122,180 円）

問合わせ：37-3488

課題・取組みの概要

- 地区内にイノシシが生息し、田畑に被害を与え、通学路へも出没するようになった。
そこで、住民有志による捕獲班を自治公民館ごとに結成。罠猟資格を取得させるとともに、罠猟の指導や殺処分など猟友会と連携して捕獲に取り組んだ。
- 捕獲に必要な囲い罠及びくくり罠を購入し、捕獲班へ貸与している。初年度は、猟友会に依頼し講習会を 3 回開催した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 罠猟についてノウハウが蓄積され、地区で捕獲できる体制が構築できた。
- 猟友会捕獲班に加入することにより、年間を通して有害鳥獣駆除ができる。
- 3 年間の捕獲状況：イノシシ（23 頭）、シカ（2 頭）
- 罠設置による事故等に備えて、毎年、同事業にて賠償責任保険に加入

今後の課題・アドバイス等

- 限定的だった出没地域が住宅地へも拡大してきているため、地域で罠免許取得者を増やしていくことが必要。
- 利用頻度が増すに伴い、罠の補修や個数を増やす必要がある。

見守り隊ベスト作成事業

パトロールベスト及び帽子



取組地区：庄内地区

取組年度：令和元年度

事業主体：庄内地区まちづくり協議会

事業費：293,760 円（基金活用額：293,000 円）

問い合わせ：37-3488

課題・取組みの概要

- 庄内地区まちづくり協議会が、平成 23 年度にパトロールベストを作製し見守り活動を行っていたが、年数を経て痛みが激しい状態となっていたので、ベスト 100 枚と帽子 100 個を作成した。
- 地区内の小中学校（4 校）の見守り活動ボランティアや PTA 役員用、まちづくり協議会活動用として、各 20 枚を配布した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 統一したパトロールベスト及び帽子を着用することで、地域全体で見守り活動の推進を図ることができた。
- 目立ちやすい色のベストの胸側に「庄内・防犯」、背中側に「防犯パトロール」、下段には「庄内地区まちづくり協議会」の文字を反射テープで入れ込んだ。

今後の課題・アドバイス等

- 配布後の管理は、各団体に依頼しているため、保管状況等は把握できていない。
- 経年劣化するため、交換時期と財源も検討していく必要がある。

防災対策環境整備事業

LED スタンドライト



ブルーシート保管状況



取組地区：庄内地区

取組年度：令和2年度

事業主体：庄内地区まちづくり協議会

事業費：2,818,614円（基金活用額：2,817,000円）

問合わせ：37-3488

課題・取組みの概要

- 令和元年度に実施された総合防災訓練をきっかけに防災意識が高まり、住民自ら行動を起こすことの大切さを認識したことから、災害対策にともなうヘルメットや発電機等を購入した。
- 防災資機材を使って継続的な訓練を実施し、備品を活用した災害対策体制を構築した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 初期救助支援用にヘルメット、担架、リヤカーを整備。災害対策本部立ち上げ用に発電機、照明器具などを、避難所支援用に焚き出し用釜、発電機、ブルーシートなどを整備した。
- 災害対策本部立ち上げや避難所運営支援用の防災資機材は、令和元年度に設置した倉庫に整備保管し、定期的に点検を実施している。

今後の課題・アドバイス等

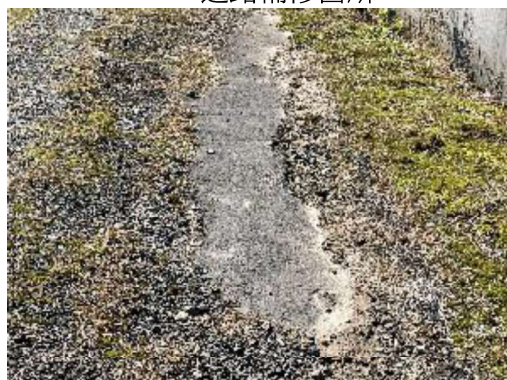
- 令和元年度の総合防災訓練を継続する形で、令和2・3年度も地区防災訓練を実施。整備した資機材は、発災時はもちろん、訓練にも活用する。

道路環境整備事業

振動コンパクター&燃料缶



道路補修箇所



取組地区：西岳地区
取組年度：令和2年度
事業主体：西岳地区まちづくり協議会
事業費：100,650円（基金活用額：100,650円）
問合わせ：33-2000

課題・取組みの概要

- 西岳地区は市道延長が260kmと非常に長く、補修や改良要望が多い地区である。
- 市道補修のうち小規模な穴ボコは、地区住民が自主的に補修を実施している。
- 転圧機の導入により、よりきれいな補修となり、人力による負担及び作業人数も効率的に行うことができる。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 軽量で使い易い機械の選定を地元専門家と協議した。
- 事業費圧縮のため、複数社の見積りを取得した。
- 備品台帳を作成し、貸出簿により貸出状況を管理している。

今後の課題・アドバイス等

- 故障の回避や延命化を図るため、使用後の清掃・機器点検を使用者とまちづくり協議会で徹底して行っている。
- 細目に小規模補修を行うことにより、地区道路の安全に繋がっており重要である。

交通安全啓発支援事業



取組地区：中郷地区
 取組年度：令和2年度
 事業主体：中郷地区まちづくり協議会
 事業費：165,500円（基金活用額：165,000円）
 問い合わせ：39-0713

課題・取組みの概要

- 街頭啓発時に着用する揃いの上着（制服）がなく、以前からスタッフからの購入の要望があった。
- 啓発活動のアイテムとして、ボランティアスタッフジャンパーを購入した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 揃いの制服で街頭啓発を行うことで、交通安全の強いメッセージが発信できた。
- 各スタッフへジャンパーを貸与し、洗濯等各自で管理。交通指導員にも貸与し、交代時には、後任へジャンパーも引き継ぐものとする。

今後の課題・アドバイス等

- 更新費用の確保が必要である。

防犯対策事業



取組地区：中郷地区
取組年度：令和 2 年度
事業主体：中郷地区まちづくり協議会
事業費：556,050 円（基金活用額：548,000 円）
問い合わせ：39-0713

課題・取組みの概要

- 人家が少なく、広範な地域の中高生が利用する通学路で、防犯と交通安全対策上、街灯設置が必要な通学路がある。
- 複数の公民館が関わる通学路で街灯の設置が必要な 3 路線を選定し、16 基の街灯を設置した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 夜間、暗い夜道を帰宅していた中高生の防犯と交通安全対策の強化が図られ、安心・安全なまちづくりに貢献できた。
- LED 一体型、防雨型を選定した。

今後の課題・アドバイス等

- 電気料金及び維持管理先を、関係する自治公民館で協議調整を行った。
- 街灯は、防犯上必要と認められる箇所への設置だけでなく、現在の交通事情を考慮すると交通安全対策としても必要不可欠である。

有水地区防災道德教育事業



取組地区：高城地区

取組年度：平成 29 年度、平成 30 年度

事業主体：有水の将来を考える会実行委員会（有水の将来を考える会）

事業費：567,318 円（基金活用額：564,000 円（H29：330,000 円、H30：237,318 円））

問合わせ：59-9306（有水小学校）

課題・取組みの概要

- 高齢化が進む集落では、南海トラフ地震による大規模災害の発生が懸念されているので、地震による家具転倒を防ぐ防災対策を進めた。
- 小中学校生、保護者、公民館、民生委員、学校運営協議会が参加し、家具転倒防止版、L 字金具を準備し、高齢者宅の家具固定の作業を実施した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 家具固定を実施した高齢者宅は、大規模地震の際、家具転倒が防止され安全を確保された。
- 幼稚園児や小中学生、保護者、民生委員等が参加することで、多世代交流を図るとともに、防災に対する意識付けができた。
- 平成 29 年度 28 戸、平成 30 年度 22 戸、計 50 戸の高齢者宅に家具固定を実施した。

今後の課題・アドバイス等

- 高齢者は、詐欺事件等が多く発生している状況もあり警戒心が強い方もいるので、訪問する際、民生委員や公民館長の同行を必要としている。

高城地区見守り隊支援事業



取組地区：高城地区

取組年度：平成 29 年度、令和 2 年度

事業主体：高城地区青少年育成連絡協議会※事務局は、高城地区内の小中学校が持ち回り

事業費：984,048 円（基金活用額：982,000 円（H29：606,528 円 R2：377,520 円））

問合わせ：58-2311（高城地域振興課）

課題・取組みの概要

- ボランティアとして活動している見守り隊を支援するため、ブルゾンベストや冬用コートを整備し、子どもたちの安心と安全を確保する。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 冬用コート及び夏用ベストを整備し、着用することで、見守り隊と不審者との差別化を図り、隊員の責任感の意識を向上させた。

今後の課題・アドバイス等

- 見守り隊のメンバーは、各館長から小学校へ届けがあり、隊員となっている。見守り隊の意見や要望等を聞き取り、交流会や研修会を行う必要がある。
- 更新に係る費用が課題である。

自主防災隊資機材整備事業



取組地区：高城地区

取組年度：令和元年度

事業主体：高城地区まちづくり協議会

事業費：2,305,600 円（基金活用額：2,305,000 円）

問い合わせ：58-2317

課題・取組みの概要

○大型台風や大地震等の自然災害により、家屋の倒壊、道路への倒木が発生し、早期の人命救出、道路復旧を必要するとき、地域の自主防災隊を中心とした災害活動を展開しなければならないので、防災資機材の整備を必要としている。

成果・事業の特徴・工夫したこと

○充電式チェーンソーやパイプテコ、救助用ロープの防災資機材を整備することで、地域住民の自助・共助に関する認識を深めることができた。

今後の課題・アドバイス等

○防災資機材を災害活動時に使用する際、安全な活動を徹底するために資機材の操作技術の向上と習熟を図る防災研修会を定期的に行う必要がある。

○日常の維持管理や更新に係る費用が課題である。